

特定非営利活動法人 日本免疫学会
2019 年度 後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	小野 由湖	会員番号	0035594
申請者の所属・職名	九州大学大学院歯学府 博士課程 4 年 口腔顎顔面病態学講座 顎顔面腫瘍制御学分野		
出席会議名	The 2019 American College of Rheumatology (ACR) Annual Meeting		
発表論文タイトル	ROR γ t antagonist attenuates experimental sialadenitis like Sjögren's syndrome via inhibition of CD25 expression on CD4 ⁺ T cells		

この度は、Tadimitsu Kishimoto International Travel Award を賜り、誠にありがとうございました。

私は本演題を、米国アトランタで開催されました The 2019 American College of Rheumatology (ACR) Annual Meeting で発表させて頂きました。本学会は、関節リウマチをはじめとした自己免疫疾患における世界各国の臨床・基礎の専門家が集う最高峰の学術集会です。

シェーグレン症候群 (Sjögren's syndrome; SS) は、唾液腺や涙腺等の外分泌腺が障害され、臓器障害も生じる全身性自己免疫疾患ですが、未だ病因は解明されておらず有効な治療法也没有ありません。

私は本学会の Sjögren's syndrome-Basic & Clinical Science というセッションにおいて、「ROR γ t antagonist attenuates experimental sialadenitis like Sjögren's syndrome via inhibition of CD25 expression on CD4⁺ T cells」という演題名で発表させて頂きました。本研究では、ROR γ t アンタゴニストが、SS 様の唾液腺炎を、頸部リンパ節の CD25 (IL-2R α) の抑制を介して改善することを明らかに致しました。特に T 細胞に着目し解析していることから、多くの方に興味を持って頂き、同分野の研究者と非常に有意義な討議をさせて頂きました。その中でも ROR γ t は T 細胞 (Th17 や Th17/Th1) 以外にも胸腺の CD4⁺CD8⁺ (DP) 細胞にも存在し、病因性の自己免疫性 T 細胞を排除するとされていることから、ROR γ t アンタゴニストが胸腺の DP 細胞に与える影響を検討したらどうかという助言を頂きました。今後は、中枢リンパ組織の解析を通じて自己免疫性唾液腺炎における ROR γ t の役割を明らかにしていきたいと考えております。

本学会参加を通じて得られました最新の知見を基に、本研究を深化させ、SS の新規治療標的の開発に向け邁進して参りたいと存じます。

末筆になりますが、このように大変貴重な機会を与えて下さりました岸本忠三先生、日本免疫学会選考委員の先生方、推薦して下さいました筑波大学 住田孝之教授に深謝申し上げます。